

療養環境研究会 第16回オープンワークショップ
「床材と清掃」

場所：国立保健医療科学院

日時：2007年2月24日 13時30分から16時30分

参加者：23名（講師含む）

司会進行：工藤真人（国立保健医療科学院 施設科学部）

主旨説明 13時30分から13時35分

話題提供3題 13時35分から15時00分

話題提供① 医療施設の維持管理の現状 工藤真人（国立保健医療科学院施設科学部）

話題提供② 精神医療施設の清掃委員会活動 吉井富三子（浅井病院業務課）

話題提供③ 医療施設のフロアケア技術 宮腰裕行（株キングランメディケア）

ワークショップ&討論 16時15分から15時30分

話題提供① 医療施設の維持管理の現状について

1) 清掃のエビデンス

CDC ガイドラインの要約と清掃に関する項目についての説明がなされた。

清掃についての項目

- ・ ベッド柵、床頭台、ドアの取手、水道のコック、手すりなどは日常的な清掃を行い、埃や汚れを取り除いている。
- ・ 手が触れない床などは、最低1日1回日常的な清掃を行い、誇りや汚れを取り除いている。
- ・ カーテンなどに目に見える汚染があるときや美的に保つ必要があるときは、洗濯あるいは清掃をしている。
- ・ 換気口や窓の格子などが、日常の清掃によって埃が蓄積しないようにしている。
- ・ 血液、体液で汚染されたときは、直ちに次亜塩素酸ナトリウムを用いて正式消毒している。

2) 床材の特徴とメンテナンス

長尺塩ビシート

（特徴）下地の不陸が目立ちにくく、耐摩耗性、弾力性、柔軟性に優れており、メンテナンスが容易である。

（メンテナンス）固く絞ったモップで水ふき。ワックスは半樹脂系のポリッシュソフトを利用する。

リノリウム

(特徴) 安定した抗菌性能、焦げ後が残らない。ビニル系シートより断熱性が優れる。

(メンテナンス) 固く絞ったモップで水ふき。ワックスは半樹脂系のポリッシュソフトを利用する。

タイルカーペット

(特徴) 帯電性、汚染性が高いが豊かな質感を持つ

(メンテナンス) 毎日 1 回は真空掃除機で繊維内部に入り込んだ土砂や埃を吸い取る。

3) 施設管理の現状

2003 年に保健医療科学院が全国の一般病床に対して実施したアンケートの調査結果が報告された。

中でも施設管理者を置いているのは、国公立病院で 62.4%、その他 55.7%となり

院内感染対策委員会への施設管理担当者の参加は、国公立で 43%、その他で 60.3%であることが報告された。

話題提供② 精神医療施設の清掃委員会活動

1) 浅井病院の勤務シフト

1 日外来に 400 名から 500 名の来院がある。

掃除の担当者は、外来に 7 名、各病棟に各 1 名、外部に 1 名の計 9 名で行っている。

掃除は、7 時前に開始され外来の診察が始まるまでにラウンジや廊下の掃除を終わらす。

その後、1 日に 4 から 5 回程度は点検を行っている。

・病棟と汚れの関係

精神科病棟・・・全体的に日々の汚れがひどい。飲食物が床にこぼれる頻度が多い。

外出が可能な人が入院している棟・・・泥など外の汚れが入ってきやすい。

冬の方が埃は多い。大気が乾燥しているため靴底の泥が乾いて落ちる。衣服の繊維が落ちるなどによる。

2) 清掃担当者の知識と能力

- ・ビルメンテナンス協会が行っている「病院清掃受託責任者」の資格が必要

- ・清掃担当者の業務調整や教育などマネジメント能力が必要

3) 清掃委員会活動

- ・浅井病院では清掃委員会→機能向上委員会→経営会議・運営会議の流れをつくり、清掃に対する意識を向上させている。

話題提供③ 医療施設のフロアケア技術

1) 清掃道具の使い方について

床：泥や湿っている部分は布のシートでふき取る

乾いている部分は紙のシートでふく（90%の埃を取る）

ブラインド：ナイロン製のポップを帯電させ埃と吸い取る

手すり：手袋型に加工した雑巾をはめてふき取る。

2) 清掃担当者の育成カリキュラム

・3Kの仕事場でしんどいが、病院をキレイにするということにかけては、主役なんだという意識をもって業務にあたっている。

・清掃を完全にアウトソーシングしてしまうと、看護職員など病院職員との意思疎通がとれにくくなる。そのため、汚れを即時にふき取れば取れる場合でも、数時間の置かれているために汚れが取れなくなる場合がある。

ワークショップ

① ビデオ上映 「埃を科学する」

② 清掃資機材体験報告

司会の1日清掃体験ビデオを見ながら清掃資機材の使い方について説明が行われる。

- ・ 清掃拠点・倉庫→掃除の拠点が外来など頻繁に掃除を行う部分の近くにあることが重要。また、掃除の拠点には水洗が必要不可欠。
- ・ 清掃カート→通常のカートとは異なり、道具が外に露出し感染源を出さないように完全にクローズしたカート
- ・ ループモップ→隅に埃がたまりやすいので隅を重点的に掃除する。
- ・ テーブル・手すり→テーブルなどを拭きながら床などを目視する。

質疑・感想（各業種から1名が発表）

□ 床材メーカー

現在、ワックスを行うとワックスとワックスの間に菌が発生してしまうことがあるため、菌を発生させない施工方法としてワックスを使わない管理を行っている。また、ワックスを使わない方がランニングコストの面でもメリットがある。

□ 医療機関

オペ室での清掃の仕方を現在勉強している。

日常の業務の中で床に関心がいくことは少ないが、環境は大事なので注意していきたい。

□ 家具メーカー

家具の開発にあたっては清掃と消毒に配慮している。

足元の掃除がしやすいようにしているが、デザイン上の問題でうまくいかない場合もある。

（質問）清掃業務者としての適性に血液型などは関係あるか

（回答）清掃業務者としての適性は、覚えたことをしっかりとしてくれるかである。教えても途中で作業が抜け落ちてくる人があり、1年ぐらい経過しないと適性はわからない。

□ 建築計画

掃除の道具を入れる拠点をつくることの大切さを感じた。

（質問）掃除に使うクロスは洗って使っているのか

（回答）紙のクロスでも 20 回は洗って使っている

（質問）洗濯や乾燥の機械は必要か

（回答）清潔用と不潔用の 2 種類の洗濯機を使っている。

議事録作成：山口健太郎（国立保健医療科学院）